

高等学校における「総合的な学習の時間」の実践を通じた考察 － 教育課程・教科課程の再編成を視野に入れて －

Consideration through the Practice of "The Period for Integrated Study" in the High School

－ Classify the Reorganization of a Curriculum, the Course of Study into the Field of Vision －

林 勇 人*

Hayato HAYASHI

要 約

学習指導要領の中で「生きる力」の育成が1996年(平成8年)以来、一貫して目標とされている。そしてこの「生きる力」育成の先導役として1998年(平成10年)に創設されたのが「総合的な学習の時間」である。この時間は正規の教育課程でありながら、具体的な内容や方法は各学校に委ねられることが多く、内容の形骸化等の様々な課題があげられた。その後2008年(平成20年)の改訂で「総合的な学習の時間」の時間数は縮減されたが、その具体的な理由や課題は明示されず残されたままである。本研究では、このような背景を踏まえて、C高等学校の「総合的な学習の時間」の実践を通じて、この時間の有意義な教科課程編成の在り方を調査、把握することを目的とした。またそこから教育課程編成全体における必要性を考察した。

Abstract

Upbringing of "the power to live" for has been aimed for in a course of study since 1996 throughout. And it "is period for integrated study" that was founded as an usher of this "power upbringing to live" for in (1998) in 1998. While this study was a regular curriculum, the concrete contents and method were often entrusted to each school and included various problems to lack in substance of contents. The number of hours of "the period for integrated study" was reduced by revision of (2008) for the next 2008 years, but the concrete reason and problem are left unfinished without being stated clearly. Through practice of "the period for integrated study" of C Senior High School, I investigated the way of significant course of study formation of this time and, in this study, was intended that I grasped it based on such a background. In addition, I consider the need in the whole curriculum formation from there.

キーワード：

総合的な学習の時間・教育課程編成・教科課程編成

Key words：

Period for integrated study, Curriculum formation, Course of study formation

I. 緒言(問題・目的)

学習指導要領の中で「生きる力」の育成が1996年(平成8年)の中教審答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」以来、一貫して目標とされている。そしてこの「生きる力」育成の先導役として1998年(平成10年)の改訂で

新たに創設されたのが「総合的な学習の時間」である。この時間の趣旨は「各教科で得られた学習成果を総合して問題を解決し、自ら考え、生きる力を養う」¹⁾というものであるが、正規の教育課程内にありながら、具体的な内容や方法は各学校に委ねられることが多く²⁾、最終的には学年団や担

* 本学教授

任任せて、内容の形骸化、共通理解の不足、教員の負担増等の課題があげられた。³⁾その後2008年(平成20年)の改訂では、「総合的な学習の時間」の時間数は縮減され、具体的な再定義がなされると共に、以前より詳細に内容が明記されるようになったが、学校主体の教育課程編成だからこその難しさを孕んでいる。⁴⁾つまり、前述した幾つかの課題が解決されたとは言い難く、いまだにどのような教科課程がふさわしいのかが具体的に示されていない。

このような背景を踏まえて本研究では、私立C高等学校の「総合的な学習の時間」の計画、実施、振り返り、改善に至る実践を通じて、「総合的な学習の時間」の有意義な教科課程編成の在り方を具体的に調査、把握することを目的とした。またそこから、教育課程編成全体におけるこの時間の必要性や在り方を考察する。

II. 方法

1. 研究方法

私立C高等学校体育クラス2年生98名を対象にした「総合的な学習の時間」において、グループ・プレゼンテーション発表を最終的な目標にした、アクティブ・ラーニングを用いた授業を行う。授業開始当初には詳細シラバス(別表1)を提示し、この時間の目的及び目標を達成する為の計画、学習内容を明らかにする。またここでは「各教科で得られた学習成果を総合して問題を解決し、自ら考え、生きる力を養う」という「総合的な学習の時間」の趣旨を実現させるためには、身に付けたい具体的な力を明示することが必要であると仮定して、「4つの力11の要素ルーブリック」(別表2)に分けて、詳細な項目と共に、授業ごとに付けるべき力を表した。

授業開始前と全ての授業終了後には、「4つの力11の要素ルーブリック」(別表2)に基づいた、身に付けたい力の現状と変化を把握するアンケートを行い、両者の変化から教科課程の有効性を分析した。またプレゼンテーション準備が始ま

るまでのアクティブラーニング(7回)の内、4回とプレゼンテーション発表終了時に1回、記述式アンケートを行い、授業過程において生徒達がどのような実感を抱いているのかを把握し、教科課程の分析へとつなげた。

2. 調査対象・調査期間

私立C高等学校文武コース体育クラス2年生B・C組、合計98名を対象にした。内訳は下記の通りである。

調査期間は平成28年10月7日～平成29年2月17日の4か月である。

表1 C高等学校 2年生 体育クラス 在籍数

クラス	男子	女子	合計
B組	44	5	49
C組	44	5	49
合計	88	10	98

3. 手続き

授業時間開始前又は終了後に、筆者が直接、生徒にアンケート用紙を配布、回収した。無記名による回収とした。

4. 調査用紙の構成

授業開始前、終了後に実施したアンケートは、「4つの力11の要素」に分かれた具体的な力をルーブリックによって3段階のレベルで明示し、各自が自己評価する形をとった。「4つの力」は「思考力・行動力・コミュニケーション力・セルフモチベーション力」に分け、さらにそれを具体的に表した「11の要素」は「リフレクション力・計画性・創造力・挑戦力・貫徹力・規律性・傾聴力・表現力・フレンドシップ力・主体性・まごころ力」とした。またテーマごとのALが終了した時点で、定期的に5回にわたり実施したアンケートは、授業テーマに合わせた自由記述式とした。

5. 調査に対する倫理的配慮

アンケートに回答することで、調査対象者が差別を受けることはないことを教示した。アンケート用紙の表紙には、アンケート結果が研究責任者によって厳重に管理され、厳正にプライバシーを守り、取り扱われることが明記され、無記名であり、回収時にも個人が特定されることのないよう

に配慮した。個人情報への配慮には研究責任者が守秘義務を遵守し、プライバシーの徹底した保護を実行した。また本研究は教育課程・教科課程再編成に向けた考察を、高等学校の「総合的な学習の時間」の実践を通じたアンケート調査で行うものであり、協力頂いたC高等学校には結果のフィードバックすることをアンケート用紙の表紙に明記し、「総合的な学習の時間」における教科課程編成の資料となることを口頭で伝えた。さらにアンケート用紙の表紙には、研究の協力を同意できなければ回答しなくても良いとするチェック項目を設け、質問に対する回答、参加を拒否できる配慮をした。

Ⅲ. 結果

1. 自由記述式アンケート結果

各授業場面で実施したアンケート(5回)の自由筆記欄の記述を、「4つの力11の要素」の定義及び項目(別表2)を参考にしながら分類した。尚、同様の記述をした数を()内に示した。

・第1回 アンケート

「思考力」

(リフレクション力)

- ・以前は紹介するのは苦手だったが、今日は楽しく上手くできたと思う。
- ・人前で話すのは苦手だと感じた。
- ・自分で考えていた以上にスムーズに話せた。
- ・自分で考えて工夫することの大切さを学んだ。

(計画性)

- ・決められた時間で紹介するのが難しかった。
- ・時間を上手く考えて使う必要があると感じた。
- ・時間を目一杯使うことが大切だと感じた。
- ・時間を長く使うには自分だけが発表するのではなく、みんなに質問することで使うと良い。
- ・3分は長いと感じたが、2分になると短く感じ、時間の使い方は難しい。
- ・インタビューや発表は、楽しんでやると3分という時間を有意義に使えた。

「コミュニケーション力」

(傾聴力・表現力)

- ・人と話をする時は、目と目を合わせることや、相槌、笑顔が大切だと思った。(12名)
- ・話すスピード、抑揚が大切だ。(6名)
- ・相手の目を見て話すとしっかりと聞いてくれることが分かって話しやすかった。(5名)
- ・相手に伝えたり、聞いたりすることは工夫することで更によくなることが分かった。(3名)
- ・グループの方が多くの方が聞いているため話し易く、話が盛り上がる。(2名)
- ・立って話すことや、相手の目を見ながらゆっくり話せば、さらに良い紹介になると思う。
- ・人前で話す時に暗い顔で話すと何も伝わらないし、楽しくなかった。
- ・笑顔で楽しそうに話している人の話は聞きたいと思い、楽しく聞くことができた。だから自分も笑顔で話すことを心掛けたい。
- ・話をする時は滑舌をよくして、大きな声ではっきりと話す。
- ・身振り手振りを付けることで、より聞き手側を注目させることが分かった。
- ・物事を伝えるのは楽しいことだと感じた。
- ・他人のことを相手に伝える難しさを感じた。
- ・想像を膨らませる質問ができた。

(フレンドシップ力)

- ・色々な人の個性や特徴が分かった。(2名)
- ・常に相手を考えて話す必要がある。(2名)
- ・人の知らない所を知ることができるのは良いことだと思った。(2名)
- ・普段あまり話さない人と話して、意外と話しやすい事に気付いた。
- ・グループによって他己紹介の方法が違って面白かった。
- ・2人よりグループで話した方が楽しかった。
- ・他者の意見を吸収することが大切だ。
- ・人との関わりを楽しみながら他己紹介をすることが出来た。

「行動力」「セルフモチベーション力」

(挑戦力) (主体性)

- ・この授業は自分にとって必要なものなので、いつも以上に集中して進んで取り組み、社会で使えるようにしたい。(4名)
- ・事務的に済ませるのではなく、自分の意見を入れて進んで取り組めて楽しかった。
- ・とても積極的に取り組めた。
- ・授業内で最初に発言が出来て良かった。
- ・話すのは苦手なので前向きに努力したい。
- ・これから努力していきたい、頑張りたい、さらに上手になりたい。

・第2回 アンケート

「思考力」

(計画性)

- ・前回の講義で学んだことを活かして、時間いっぱい話すことができた。
- ・時間を最後まで使うことができなかった。

「コミュニケーション力」

(傾聴力・表現力)

- ・メモを取る時の5W1H(いつ、どこで、誰が、何を、どのように)の大切さが分かった。(5名)
- ・メモは数字などの要点を押さえてシンプルに書くことが大切だと気付いた。(4名)
- ・情報を的確に再現することは難しい。(2名)
- ・内容を後から理解できるようメモを取りたい。
- ・メモを取るだけでなく、メモの内容をしっかりと理解することが大切だと思う。
- ・頭で場面を想像しながらメモを取った。
- ・メモを取るには書くスピードが大切だと感じた。
- ・情報をしっかりと聞き取ることの大切さを学んだ。
- ・集中して聞くことの大切さを学んだ。
- ・メモをする時に聞きそびれた所があった。
- ・「中央に」というキーワードを聞き取れなかった。
- ・話す内容をしっかりと相手に伝える為には、何かたとえたり、色んな表現で伝えると相手に興味を持ってもらえるし、伝わると感じた。
- ・分かり易く説明することができた。
- ・笑顔を見せて話したいと感じた。

- ・色んな表現の話し方があり楽しかった。
- ・絵を理解してもらうために、工夫して話した。
- ・面白さも混ぜて話さなければ、聞く側も話を聞いてくれないことが分かった。

(フレンドシップ力)

- ・一つの文章を聞いても人によって感じ方は異なることが分かった。(8名)
- ・自分の考えと他人の考え方は違うということがよく分かり、実感できた。面白かった。(6名)
- ・十人十色、考え方や感じ方を持つ仲間の多様性や価値観を、いかに受け入れるかが大切。(3名)
- ・同じことを聞いても100%全てが同一になることはほとんどない。
- ・人それぞれの個性が分かる授業だった。
- ・人それぞれ受け取り方や考え方は異なるが、シンプルな部分は同じであることが分かった。
- ・自分と違うから拒絶するのではなくて、むしろ受け入れる心を持つことで、更に視野が広がることが分かった。
- ・人それぞれ考えることや思うことは違うけれど、それらを大切に尊重し合うことが必要だ。
- ・人はみんな同じことはない。「みんな違ってみんないい。」違っていいから面白い。
- ・自分と相手が異なることで気付くことが多い。
- ・クラス一人ひとりの考えは全く一緒の人はいないので、上手く行かなくても仕方ない。
- ・今回は文が短かったので、だいたい同じ絵が書けたけど、もっと長くなると全く違う捉え方をすると思うので、そういう所を人から学びたい。
- ・一人ひとりの考え方、捉え方は違う。自分の意見の一つとしてそれを受け入れ、「自分はどうかなのか?」と問いかけ、自分を見つめ直すことが大切だと思った。
- ・自分の見えない所を他人は見ていると感じた。

・第3回 アンケート

「思考力」

(リフレクシオン力)

- ・1点から見ずに、考える視点を変化させることが大切だと感じた。(3名)
- ・もっと自分の視野を広げたい。

- ・他者の力を借りずに視野や発想を拡げたい。
- ・部活動の事ばかりを考えすぎて意見を出せなかった。次は視野を広くして意見を出したい。

(創造力)

- ・頭、思考を柔軟にすることが大切だ。(8名)
- ・硬く考えすぎて意見が出せなかった。(3名)
- ・真面目な意見が中心になってしまうので、柔軟な発想ができる人と色々な話をして発想に辿り着くまでのプロセスを聞いてみたい。
- ・自分の決まった考えに捉われずに、新鮮な発想をすることが大切だと分かった。
- ・全く思いつかずに自分の未熟さを感じた。
- ・初めは100ぐらいの意見を出せると思ったが難しかった。
- ・「違っていたらどうしよう」と考えて意見が出せなかったが、今後は気にしないで言おうと思う。
- ・集中できずに意見が少なかった。

「コミュニケーション力」

(表現力)

- ・深く考えずに思ったことを全て書けるようにすることが必要だ。(6名)
- ・自由奔放に意見を出すことは大切だと感じた。
- ・ブレインストーミングでは思いついたことをすぐに書き出すことが大切だと感じた。

(フレンドシップ力)

- ・個々に違う視点から見ていることが多く、色々な種類の意見があった。
- ・他者の意見を聞いて自分の意見とつなげ、意見を広げることができた。(4名)
- ・他者の意見から違いを見付けることが大切だ。
- ・自分が全く思いつかない意見を出す人がいた。
- ・意見を言い合いながら考えることは大切だ。
- ・自分から意見を出すよりもメンバーの意見を聞いて思いつくことが多かった。
- ・友達意見を聞いて納得することが多かった。
- ・他人の話聞いて視野の狭さに気付いた。
- ・最初一人で考えている時は苦しかったが、みんなの意見を聞いて発想や考えが広がった。
- ・自分で考えていること以外にもチームで考えていることをプラスして、新しい発想ができる

チームになると感じた。

- ・思いついたことを全部書き出した後にメンバーと交流することが大切だと思う。

・第4回 アンケート

「思考力」

(リフレクション力)

- ・沢山の意見が出た分だけ、グルーピングが大変だった。(9名)
 - ・似たような意見をグループ分けするのが難しかった。(2名)
 - ・意見が同様のものがあつたが、分担、協力してまとめることができた。
 - ・いくつかのグループに分けて順番に意見をまとめることができた。
 - ・場所や時間など、1つのものに絞ってまとめることが大切だと思った。
 - ・実際に1枚の紙に種類別に分けると、テーマに沿った内容や意味が具体的に分かり易くまとまると思った。
 - ・カードを使うと意見をまとめられることが分かった。
 - ・グルーピングする時に、何を基に考えるのが難しかった。
 - ・見やすいように区切ってまとめることが大切だと思った。
 - ・意見をつなげていくと、テーマとは違うことになってしまった。
 - ・細かくまとめると相手にも伝わりにくいし、ざっくりやったほうが良いと思った。
 - ・同じ種類の意見を重ねることや表現を変えることが大切だと思った。
 - ・他のグループのまとめ方を見て、自分たちのよりも細かくまとめあり参考になった。
 - ・意見が多ければ多いほどまとめるのは難しいけど、次はまとめる力を付けて行きたい。
- (創造力)
- ・質より量を意識することが、多くの意見を出すためのポイントだと思う。(2名)
 - ・場面や場所等を想像して意見を出し易かった。
 - ・個性のある斬新なアイデアが出せたと思う。

- ・前回よりも色々な視点から考えられた。
- ・100は難しいと思っていたが、出来て驚いた。
- ・沢山の意見を出せたが、さらに発想力豊かになりたい。
- ・初めは難しく感じたが、コツをつかむと多くの意見が出てきて楽しかった。
- ・自分からアイデアを拡げる工夫をすることが大切だと思った。
- ・アイデアを出す時に止まらないように気を付けて、止まりそうになったら、ぶつぶつぶやきながら行うことで、新しいアイデアが出せた。
- ・他人の意見を見るとさらに意見が広がった。
- ・幅広い発想を持つことができた。
- ・前回よりも柔軟に対応できたように思う。

「コミュニケーション力」

(表現力)

- ・ブレインストーミングでは考えていることを素直に書き出すことが大切だと感じた。(2名)

(フレンドシップ力)

- ・何度やっても違う意見や考えがあって面白い。
- ・違う視点から出てきた意見が多くあり、とても楽しかった。
- ・仲間がたくさん意見をを出してくれて、その意見を見て納得したことが多かった。
- ・グループで意見を交流すると、様々な考えがあることを知れてよかった
- ・思いついたことを沢山書くことで、周囲の人との交流が増えた。

「行動力」「セルフモチベーション力」

(挑戦力) (主体性)

- ・来週の発表では、1、2回目にやったことを工夫して発表したい。(3名)
- ・集中することを忘れずに、今後の発表につなげていきたい。(3名)
- ・第5回 アンケート

「思考力」

(リフレクション力)

- ・自分の役割の中で、資料を分かり易くまとめる力が付いたと実感している。
- ・発表内容を調べ、整理することに苦労した。

- ・一つひとつの行動や授業に、意味や目的があり、それを理解することが大切だと思った。

(計画性)

- ・時間内に一つのことを最後までやり遂げることの重要性を学んだ。

(創造力)

- ・物事を我慢して考える力が付いたと思う。
- ・考える力が付いた。普通の授業と違って、考え過ぎて疲れた。

「コミュニケーション力」

(表現力)

- ・面白いだけではなく、具体的な内容が伴うことが伝えるには大切だと分かった。
- ・聞いている人にどのようにすれば自分たちの考えていることを伝えられるのか、考えられた。
- ・授業を通じて人と話す機会が増え、人前に立つだけでも緊張する自分が、堂々と話せるようになった。
- ・人前で話すには、身なり、声、表情の第一印象が重要であることを実感した。
- ・人前に立って緊張したとき、自分の話がどうなるのかよく分かった。
- ・具体的な数字で裏付けると、説得力のあるプレゼンになることが分かった。
- ・相手に自分の思いや気持ちを伝えるための学びをすることができてよかった。
- ・他者に伝えるためには、様々な工夫が必要だ。

(フレンドシップ力)

- ・準備は大変だったが、仲間と協力してやり遂げ、やりがいと達成感があった。(7名)
- ・グループで協力して試行錯誤しながら作り上げることに価値があることが分かった。
- ・グループ・プレゼンテーションによって、仲間と協力し合うこと、役割分担することが学べた。
- ・グループ・プレゼンテーションを成功させるには、協力し合うためのコミュニケーションが必要だと思った。
- ・授業を通じて仲間との関わりが増え、とくに人間関係が良くなった。絆が深まった。
- ・各チームによってやり方が違い、個性があっ

良かった。

「行動力」「セルフモチベーション力」

(挑戦力) (主体性)

- ・最初は授業の意味が分からなくて不満もあったが、意味が分かってからは積極的に取り組めた。
- ・意味がなくめんどくさい授業だと最初は感じたが、徐々に意味が分かり、最後は良かったと思え前向きに取り組めた。
- ・将来、社会に出てから色々な面で役に立つ授業だと感じた。良い経験ができ積極性が生まれた。

以上のように、「4つの力」と「11の要素」に分けて自由筆記欄の記述内容を整理した。アンケート1回目から5回目の各授業場面において、生徒たちが進んで記述した内容数は、表2、3のような推移を見せた。

表2 自由筆記欄 (「4つの力」推移)

4つの力	1	2	3	4	5	合計
思考力	10	2	23	36	6	77
コミュ力	47	52	22	7	20	148
行動・セル	9	0	0	6	3	18
合計	66	54	45	49	29	243

表3 自由筆記欄 (「11の要素」推移)

11の要素	1	2	3	4	5	合計
リフレク力	4	0	6	23	3	36
計画性	6	2	0	0	1	9
創造力	0	0	17	13	2	32
傾聴・表現	36	25	8	2	8	79
フレンド力	11	27	14	5	12	69
挑戦・主体	9	0	0	6	3	18
合計	66	54	45	49	29	243

「4つの力」の推移(表2)では、1回目から5回目のアンケート全てにおいて「コミュニケーション力」に関する記述があり、合計148件になり最多であった。これをさらに具体的に表した「11の要素」の推移(表3)に目を移すと、「傾聴力、表現力」に関する何らかの感想を持った生徒

が79件と最多であった。次いで多かったのが「フレンドシップ力」に関する記述で69件であった。この項目は5回にわたり安定した記述が見られた。詳細シラバスにあるように、今回の学習のテーマは「アクティブラーニングを通じてコミュニケーション力を身に付ける」であり、学習計画の中で毎回の授業の目標に掲げた「身に付けるべき力」の最多も「コミュニケーション力」であった。したがって、このような推移となったのは、生徒たちが計画に沿った学習を進め、有意義な教科課程が実施された成果であると考えられる。また「コミュニケーション力」に次いで多かった項目は、「思考力」に関するもので、約半数の78件であった。「11の要素」で表すと「リフレクシオン力」36件、「創造力」32件、「計画性」9件の順であった。「リフレクシオン力」は全体を通じてほぼ記述が見受けられたが、「計画性」に関する記述は前半が多く、「創造力」に関する記述は特に後半に多く見受けられた。この点も「コミュニケーション力」で述べた内容と同様に、計画に沿って有意義な授業がなされた成果であると考えられる。「4つの力」の中で残った「行動力」と「セルフモチベーション力」は、具体的な項目では「ポジティブ思考、向上心、責任感」等になり、記述から両者を明確に区分することは難しく、ここでは一つにまとめて表した。この力は2、3回目のワークにおいては記述が見られなかった。

このような結果と詳細シラバス(別表1)で計画した各授業における「付けたい力」の数は比例する結果となっており、教科課程の中で立てた目標やねらいに逸れることなく、効果的な学習活動が展開されたことが窺える。

2. 授業開始時・終了後「4つの力11の要素」自己評価アンケート結果

全体の授業開始時及び終了後に「4つの力11の要素ルーブリック」(別表2)に基づいて自己評価アンケートを行った。その変化を全員の評価合計点から3段階レベルの平均値を算出し、グラ

フで表した。まず、「4つの力」の結果（図1）である。

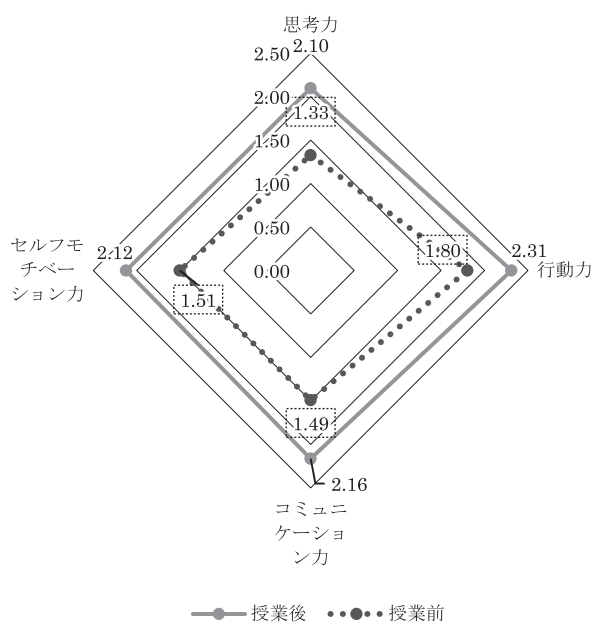


図1 授業開始・終了後の自己評価アンケート
「4つの力」の変化 (3段階平均値)
n = 94

「思考力」「行動力」「コミュニケーション力」「セルフモチベーション力」の「4つの力」について、授業前において最も自己評価が高かったのは「行動力」の合計170ポイント、平均値1.8（3段階評価）、次いで「セルフモチベーション力」の合計142ポイント、平均値1.5であった。一方で最も評価が低かったのは「思考力」の合計125ポイント、平均値1.3、次いで「コミュニケーション力」の合計140ポイント、平均値1.5であった。この数値から、積極的に行動することは得意であるが、熟慮して、他者の気持ちを押し量りながら行動することは苦手な傾向があり、全員が運動部に所属している体育クラスの傾向が読み取れた。

授業前後の伸び率の比較では、最高値は「思考力」の72ポイント、平均値0.77、次いで「コミュニケーション力」の63ポイント、平均値0.67、「セルフモチベーション力」58ポイント、平均値0.61、「行動力」48ポイント、平均値0.51の順であった。最終的な自己評価を上位から順に

見てみると、「行動力」合計217ポイント、平均値2.3、「コミュニケーション力」合計204ポイント、平均値2.16、「セルフモチベーション力」合計200ポイント、平均値2.12、「思考力」合計197ポイント、平均値2.1の順であった。この結果から、授業開始前に低評価だったものほど伸び幅が大きいことが分かった。また最終的にはどの項目においても成長を実感しているが、各項目の評価順位は当初と変化することはなかった。

次に「4つの力」をさらに具体的に表した「11の要素」の結果（図2）である。

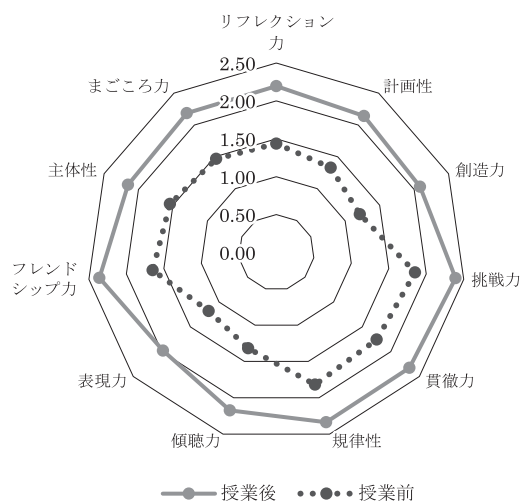


図2 授業開始・終了後の自己評価アンケート
「11の要素」の変化 (3段階平均値)
n = 94

「11の要素」の中で、授業前に最も自己評価が高かったのは、「挑戦力」の合計174ポイント、平均値1.85、次いで「規律性」の合計171ポイント、平均値1.82、「貫徹力」の合計165ポイント、平均値1.75の順であった。一方で自己評価が低かったのは、「表現力」の合計111ポイント、平均値1.18、次いで「創造力」の合計114ポイント、平均値1.21、1ポイント差で「傾聴力」の124ポイント、平均値1.32、「計画性」の125ポイント、平均値1.33となった。先の「4つの力」の項でも大まかにクラスの特徴を述べたが、ここではさらに具体的に、基本的な生活習慣、礼節、道徳観等が身に付き、何事にも前向きに挑戦し

て、最後までやり通す積極的な生徒の姿がある一方で、言葉や表情で表現することや、他者の話をじっくり聴いてコミュニケーションを取り、その上で考えながら計画的に行動することが苦手な生徒の姿を読み取ることができた。

授業前後の伸び率の比較では、最高値となったのは「創造力」の78ポイント、平均値0.88、次いで「傾聴力」の76ポイント、平均値0.85、1ポイント差で「計画性」72ポイント、平均値0.81、「表現力」71ポイント、平均値0.8となった。これも先の「4つの力」の結果と同様で、授業開始前に低評価だった項目の伸び率が高い結果となった。この点から、生徒たちが授業開始前には苦手意識を感じていたことに対して、授業の中で積極的な姿勢で取り組んだことが窺えた。

授業終了後の最終的な自己評価の上位から順に見てみると、「挑戦力」の合計220ポイント、平均値2.39、次いで「フレンドシップ力」の合計217ポイント、平均値2.36、1ポイント差で「規律性」の215ポイント、平均値2.34、「貫徹力」の214ポイント、平均値2.33で大きな変動はなかった。ここで注目したいのは他の項目の授業前後の変動が見受けられない中で、唯一変動している「フレンドシップ力」の評価である。この項目は最終的には全体の2番目の高評価で、授業前は155ポイント、平均1.65で、3番目の貫徹力とは10ポイント差、2番目の規律性とは16ポイント差で、全体の4番目だったが、最終的には最上位の「挑戦力」220ポイントに3ポイント差の高い評価となった。これは、自由記述にも「授業を通じて仲間との関わりが増え、とくに人間関係が良くなった。絆が深まった。」とあったように、授業を通じて平日頃の人間関係が深まり、学級の雰囲気より良い方向へ促進され、「学力的な成果」とは別の「副次的効果」を生んだ点に、起因した結果であると考えられる。

一方、最終的な自己評価を下位から順に見てみると、最も低かったのは「表現力」の合計182ポイント、平均値1.98、次いで「創造力」の合計192ポイント、平均値2.09、1ポイント差で「計

画性」の197ポイント、平均値2.14、「主体性」の198ポイント、平均値2.15が並んだ。授業開始前と項目は変化しておらず、苦手分野を完全に克服するまでには至っていない。しかしながら、全体を通じて考えるならば、当初と比較して「11の要素」の全てが向上しており、この「総合的な学習の時間」の教育課程は有意義なものであったと考えられる。

IV. 考察

1. 「生きる力」の明確化と教科課程編成

1998年(平成10年)の学習指導要領改訂で創設された「総合的な学習の時間」の趣旨は、「各教科で得られた学習成果を総合して問題を解決し、自ら考え、生きる力を養う」というものである。そして平成20年改訂で「生きる力」は、基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようとして、自ら課題を見つけ、学び考え、主体的に判断して、よりよく問題を解決する資質や能力とされる「確かな学力」、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心等の「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康や体力」の3つであるとした⁶⁾。さらに、平成27年3月文部科学省公示の次期学習指導要領の「生きる力」は、「生き抜く力」を育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現をテーマに掲げ、その具体化は、「生きて働く“知識・技能”の習得」、「未知の状況にも対応できる“思考力・判断力・表現力等”の育成」、「学びを人生や社会に活かそうとする“学びに向かう力・人間性”の育成」の3本の柱を、偏りなく実現することとした⁷⁾。上記の流れを踏まえて「生きる力」について改めて考えると、通常の学習で行われる知識、理論等を社会における実践力へと変換して、社会の中で「生き抜く」ための力が求められていることが理解できる。そして「総合的な学習の時間」は、各教科で得られた学習成果を総合して、この「生きる力」を養う働きを担うのである。このように考えると、この時間の必要性や役割は大き

く、これを果たすことは容易なことではない。

この役割を果たすために2つの課題を克服しなければならないと考える。まず育成の中心となる「生きる力」についての課題である。この力は「生きて働く知識・技術」「思考力」「判断力」「表現力」「学びに向かう力」「豊かな人間性」等で表現され、このままでは「生きる力」が何であるのか、実際に学ぶ側、教える側の一人ひとりに身近なものとして迫ってこない。双方の理解が曖昧なまま学びに臨んでしまう危険性を孕み、「生きる力」を育成することが難しくなる。このような点を踏まえ、今回の学習計画では、1時間ごとの授業において具体的に噛み砕いた表現である「11の要素」に細分化し、さらにそれを項目（別表2参照）に分け、各時間における目標を詳細に明確化した。このことにより、学ぶ側、教える側の双方が目標とする力を身近なものとして捉え、これを身に付ける術を具体的に思い描きながら学習活動に取り組むことの可能性を高めた。その結果「11の要素」全てにおいて、生徒たちは成長を実感していることがアンケートから読み取れた。したがって「総合的な学習の時間」の本来の役割を果たすには、「生きる力」の詳細な具体化が必要であり、この点を踏まえて教科課程編成を行うべきであると考えられる。

2. 学校主体の教科課程編成の在り方

2つ目の課題は、冒頭で述べたように「総合的な学習の時間」における教科課程編成は、最終的には各学校に判断を委ねられ「創意工夫」を任される点から、「大きな成果を上げている学校がある。一方で、当初の趣旨、理念が必ずしも十分に達成されていない状況も生じ、しばしば課題が指摘されている。」⁹⁾点である。例えば「単にイベントで終わっている。特別活動と区別がつかない。体験しただけで何を学んだかが明確でない。」といった問題である。このような課題を克服する為には、各学校は教科課程編成にどのような姿勢で臨めば良いのだろうか。

今回の実践では、授業を実施した私立C高等学校普通科、文武コース、体育クラス2年生（男

子88名・女子10名）の最大の特徴は、全員が全国レベルで活躍する運動部に所属していることと理解した上で、さらに授業開始前に行ったアンケートにおいて、「基本的な生活習慣が身に付き、礼儀正しく活動的で、仲間と協力しながら物事に取り組むことは得意であるが、他者の話や情報を収集しながら、物事を熟慮して計画的に推し進め、創造的な行動をすることは苦手な傾向がある」こと等を読み取り、アクティブ・ラーニングの活用、付けるべき力の選択、プレゼンターマの設定等、様々な場面における教授内容及び方法、教材選択に活かすことができた。今回、最終的なアンケートで「11の要素」全てに成長が見受けられたのも、教師が生徒理解を深く推し進め、長所や課題を明確にすると共に、学校を取り巻く地域環境や教職員等の実態も加え、柔軟性を持ってそれぞれの課題に応じた独自の編成をすることによるものが大きいと考えられる。

教科課程編成が最終的に各学校に任されているからこそ、まず生徒理解を詳細に推し進め、現状に見合った教授内容及び方法、教材選択を行い、柔軟性のある独自の編成が可能になる。「総合的な学習の時間」の教科課程編成においては、学校主体の教科課程編成をマイナスに捉えるのではなく利点として捉え、最大限これを生かしつつ、深い生徒理解から始まる現状にふさわしい教科課程編成を行いたい。

V. 今後の課題

今回「総合的な学習の時間」の実践を通じて、この時間の教科課程編成の在り方や役割を果たすための方策について考察した。この実践はC高等学校の98名に限った実践であり、調査の限界がある。今後さらに多くの対象者に協力頂きながら、より明確な結論を検討していきたい。

またこの実践の中で「総合的な学習の時間」本来の役割を果たすには、1時間ごとの授業において「生きる力」を具体的に噛み砕いた目標提示が必要であり、学習計画の中に組み入れることの有

効性を述べてきた。しかし、この時間だけで「生きる力」を育むのは限界があり、当然のごとく教育課程全体、全ての科目で育むことが求められている。このような点から考えると、各科目でも同様に「生きる力」と科目の学びのつながりや、授業ごとの具体的な力を明らかにしながら、教科課程編成を行ない、学習計画に組み入れる必要があると考えられる。今後このような点を明らかにしていきたい。

[引用文献・参考文献]

- 1) 文部科学省 (1998) 学習指導要領
- 2) 柴田育郎 “ともに歩んだ戦後日本の教育課程”
学び舎 教職課程研究 (10) pp 35-46 2015 愛知淑徳大学教育学会
- 3) 諏江康夫 (2015) “北海道における高等学校教育課程編成・実施の課題” - 次期学習指導要領に向けて - 北方圏学術情報センター年報 Vol.7 pp 15 - 16
- 4) 鳥越ゆい子 (2015) “学校主体の教育課程編成の意義と課題” - 総合的な学習の時間が子どもの学校生活に与える影響 帝京科学大学教職指導研究 Vol.1 No.1 pp 199
- 5) 無藤隆 (2008) “平成 20 年改訂小学校教育課程講座 第 13 巻総合的な学習の時間” ぎょうせい
- 6) 文部科学省 (2008) 学習指導要領
- 7) 文部科学省 (2017) 次期学習指導要領公示 3/27

別表 1

H 28 体育コース2年 グループ・プレゼンテーション指導計画

回数	テーマ	内 容	詳 細	活動単位	付けたい力
学習活動は「協働」が基本					
1	自己紹介・他己紹介	自己紹介・他己紹介の実施	インタビューシートを活用して自己紹介・他己紹介を行いながら交流を深める	ピア	規律性・傾聴力
2	メモ・身体的コミュニケーション	ロールプレイ実施	メモを取る必要性、身体的コミュニケーションの実践を行う	ピア	傾聴力・表現力
3	発想を広げる	情報収集からアイデアを出す	記事内容を聞き取り情報を正確に把握する。各自のアイデアを出し合う	チーム	リフレクション・計画性
4	発想の体系化	ブレインストーミング実施	ブレインストーミングで出た意見を項目ごとに整理し、体系化する	チーム	リフレクション・創造力
5	発想力の向上	シンキングマップを作成する	課題に沿ってシンキングマップを作成する	個人	表現力・創造力
6	情報収集	インタビュー調査の仕方を知る	インタビュー調査の仕方をシートに沿って学び、模擬インタビューを行う	ピア	傾聴力・表現力
7	レポートライティング	パラグラフライティング法を知る	例文を通じてパラグラフライティングの方法を知り、実際に書いてみる	ピア	傾聴力・表現力
8	チームエントリー	プレゼンテーションを経験する	テーマに従って3分間のプレゼンテーションをする。	チーム	リフレク・傾聴力・フレンドシップ
9	GP準備①	テーマ発表・テーマ調査	チームで発表されたテーマについて調べ、これまでのスキルを使い内容を整理する。	チーム	リフレク・傾聴力・フレンドシップ
10	工程表の作成 GP準備②	GPルール発表・工程表作成	チームでプレゼンテーションまでの全体像を捉えて、今後の工程表を作成する	チーム	表現力・計画性
11	資料の作成 GP準備③	審査基準発表・発表資料作成	チームでGPに向けて資料を作成する	チーム	表現力・傾聴力・フレンドシップ
12	リハーサル GP準備④	リハーサルを行う	発表リハーサルを行い、時間管理、内容、伝え方等の最終確認を行う	チーム	リフレク・計画性・挑戦力
13	クラス発表	各クラスでGPを実施する	各クラスでGPを実施し、代表チームを決める	チーム	表現力・傾聴力・フレンドシップ
14	コース発表	コースで代表チームによるGPを実施する	コースで各クラスの代表チームによるGPを実施し、審査・振り返りを実施する	チーム	表現力・傾聴力・フレンドシップ
15	全体の振り返り	講義全体で学んだことを振り返る	各グループでこれまでの講義を振り返り、学んだことを整理し模造紙にまとめ掲示する	チーム	表現力・傾聴力・フレンドシップ

※活動単位の「チーム」とは、4人以上の集まりのことを指す。「ピア」とは、共通の目標に向けて共に取り組む少人数の集団のこと。ここでは2人を前提とする。

※付けたい力の具体的内容は別紙「4つの力と11の要素ルーブリック」を参照する。

別表2

「真剣味」を具現化する「4つの力と11の要素」ルーブリック

4つの力	11の要素・定義	項目	レベル1(基礎)	レベル2(応用)	レベル3(発展)
思考力	リフレクション力 広い視野を持ち様々な情報を取捨選択することで社会や自己の現状を把握し、課題を発見する力	・素直さ ・謙虚さ ・広い視野 ・情報収集力 ・情報整理力 ・情報分析力 ・判断力 ・自己評価力	・インターネット、新聞、書籍等から様々な情報収集をする手段を理解している。 ・情報を活用して、自分自身や社会の現状把握しようとしている。	・インターネット、新聞、書籍等から様々な情報収集をすることができる。 ・情報を活用して、自分自身や社会の現状把握をすることができる。	・インターネット、書籍、新聞等から様々な情報を収集し、取捨選択することができる。 ・情報を活用して、自分自身や社会の課題を把握することができる。
	計画性 様々な課題を解決するために目標設定と計画立案し、現状に沿って臨機応変に計画を修正して行く力	・目標設定力 ・時間管理能力 ・修正力	様々な課題を解決するための目標設定と計画立案の手順を理解している。	様々な課題を解決するための目標設定と計画立案が、手順に沿って円滑にでき、それを実行することができる。	様々な課題を解決するための目標設定と計画立案が、手順に沿って円滑にでき、それを着実に実行し、臨機応変に修正することができる。
	創造力 柔軟な発想で新たな考えや方法、価値観を生み出す力	・柔軟な発想力 ・洞察力 ・フロンティア精神	新しいものを創り出すことを意識しながら、様々な視点で物事を見つめ、アイデアやヒントを積極的に探そうとしている。	新しいものを創り出すことを常に意識しながら、様々な視点で物事を見つめ、複数の情報を組み合わせて物事を考えることができる。	新しいものを創り出すことを常に意識しながら、様々な視点で物事を見つめ、複数の情報を組み合わせ、新しいものを創り出すことができる。
行動力	挑戦力 健康な体を基本として、前向きに物事を捉え、考えや思いを確実に行動に移す力	・健康 ・体力 ・ポジティブ思考 ・決断力 ・実行力	・規則正しい生活を心掛け、健康保持に努めている。 ・積極的に行動し、何事にも挑戦しようとしている。	・規則正しい生活を継続し、健康を保持することができる。 ・積極的に行動し、何事にも挑戦する中で、多くの気付きを得ることができる。	・規則正しい生活習慣が確立され、健康保持と増進を図ることができる。 ・積極的に行動し、何事にも挑戦する中で、多くの気付きを得、目標に向かい常に努力することができる。
	貫徹力 行動に移したしことを最後まで諦めずにやり通す力	・忍耐力 ・妥協しない力 ・完遂力	諦めずに最後まで取り組む中で、多くの学びがあることを知り、目標達成を目指して行動しようとしている。	諦めずに最後まで取り組む中で、我慢することの大切さを知り、常に目標達成を目指して行動することができる。	諦めずに最後まで取り組む中で、我慢することの大切さや自分の弱さを知り、常に目標達成を目指して行動し、やり遂げることができる。
コミュニケーション力	規律性 基本的な生活習慣が身に付き、ルールやマナーを守る力	・基本的な生活習慣 ・礼節 ・道徳観 ・倫理観	・挨拶・言葉遣い等の礼儀作法が身に付き、身の回りの整理整頓ができる。 ・ルールや時間を守り、学内で周囲に迷惑を掛けることがない。	・心をこめた挨拶・言葉遣い等の礼儀作法が身に付き、周囲を配慮した整理整頓ができる。 ・ルールを守り、時間、期限に余裕を持った行動をし、公共の場で周囲に迷惑を掛けることがない。	・その場に相応しい挨拶・言葉遣い等の礼儀作法が身に付き、何事にも周囲を配慮して行動することができる。 ・ルールを守り、時間を有効に活用し、公共の場で周囲に注意を促すことができる。
	傾聴力 他者の話に耳を傾け、真摯な姿勢で聞く力	・聴く力 ・質問力 ・コメント力	話し手の目を見て姿勢を正して静かに聞き、話の内容をできる限り理解しようとしている。 (「聞く」段階)	話し手の目を見て姿勢を正して適切なうなずきとメモを取りながら注意深く聞き、話の内容を理解している。 (「聴く」段階)	話の要点を捉えながら集中して聞き、質問を投げかけることで新たな気づきを得て、自己の課題の克服に努めることができる。 (「訊く」段階)
	表現力 様々な表現方法を用いて、自分の考えや思いを正確に相手に伝える力	・言語表現力 ・非言語表現力 ・プレゼンテーション力 ・ディスカッション力 ・ICT活用能力	・自己の考えや意見を分かり易く内容を整理して伝えようとしている。 ・様々な表現方法があることや、それぞれの効果を知っている。	・自己の考えや意見を分かり易く要点を整理して伝えることができる。 ・様々な表現方法を使いながら伝えることができる。	・自己の考えや意見を分かり易く要点を整理した上で、非言語表現も意識しながら心を込めて伝えることができる。 ・様々な表現方法を場面に応じて効果的に使い分け、伝えることができる。
	フレンドシップ力 他者を敬い、状況に応じて周囲と協力しながら物事を推進する力	・多様性 ・共感性 ・役割認識 ・一体感	・他者の言動に関心を持ち、良い面を捉えて行動しようとしている。 ・集団内での自分の役割を考え、協力しながら行動しようとしている。	・他者の言動の理解に努め、尊重しながら行動することができる。 ・集団内での自分の役割を認識し、協力しながら行動することができる。	・常に他者の言動や価値観の理解に努め、尊重しながら行動することができる。 ・集団内での自分の役割を認識し、状況に応じて協力しながら行動することができる。
セルフモチベーション力	主体性 向上心、責任感、使命感を持ち、自ら進んで物事を行う力	・向上心 ・責任感 ・使命感 ・リーダーシップ	・何事にも興味や関心を持ち、自分のやるべきことを見出そうとしている。 ・失敗を生かし創意工夫しようとしている。	・何事にも興味や関心を持ち、自分のやるべきことを見出し、責任感を持って行動している。 ・失敗を生かし創意工夫することができる。	・何事にも興味や関心を持ち、自分のやるべきことを見出し、やりがいと誇りを持って行動することができる。 ・失敗を生かし常に創意工夫することができる。
	まごころ力 自分自身や人間の生きる意味の尊さに気づき、奉仕の精神と他者への愛情を持って行動する力	・奉仕の精神 ・共存共栄の心 ・動物愛 ・自然愛 ・地球愛 ・人間愛	・自然や動物と触れ合い、自然が人間に多くの恩恵を与えていることを知り、命の尊さを感じている。 ・ボランティア活動に取り組むことができる。	・自然・動物・人間それぞれの視野に立って物事を考え、共存共栄の大切さを知り、生きることを理解しようとしている。 ・ボランティア活動に立って取り組むことができる。	・地球規模の大きな視野に立って物事を考え、生きることを喜びや素晴らしさの理解に努めている。 ・誰かのため、何かのために主体的に行動することができる。